

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	法学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学生の多様な進路希望に適切に対応するために設けたコース制の充実や職業教育導入のための方策を検討する。	→ 「コース制についての満足度調査等の独自アンケート調査の実施状況」「選択したコースと卒業後の進路の対応状況」「新入生オリエンテーションでの説明時間数やコース選択前オリエンテーションへの出席者数」「コース制についての周知実績(独自パンフレット作成の有無等)」「職業教育関連科目の有無・科目数」	B	A			
2. 少人数教育のための演習科目を充実させる方策を検討する。	→ 「演習科目についての満足度調査項目を含むアンケート調査の実施状況」「選択必修ないし選択制の演習科目(研究演習・人文演習等)の履修率」「演習科目の効果的な再配置と新設の検討状況」「1年次配当の演習科目(基礎演習)における初年時教育の内容」「学内や他大学の演習クラスとの合同による研究演習の実施数」「新入生オリエンテーションでの説明時間数やゼミ選択前のゼミ説明会への出席者数」「演習科目についての周知実績(独自パンフレット作成の有無等)」	B	A			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目0.0.1	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
	(理念・目的の設定の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→ <input checked="" type="radio"/> 理念・目的を設定している <input type="radio"/> 理念・目的を設定していない
	<p>(理念・目的)</p> <p>法学部では教育理念に「ソーシャル・アプローチ」を掲げ、政治・社会・経済・歴史・哲学をはじめ、法はもちろんその背後にあって法を動かす力に目を向けます。そのなかで広く深い社会的視野と教養を育成。民間の自由な精神にもとづく教育を実践し、社会奉仕の精神をもった人材の育成をめざしています。</p> <p>「ソーシャル・アプローチ」とは、H. F. ウッズウォース初代法文学部長の言葉です。その内容は、次の三点に要約することができます。第一に、日本における法学教育が官僚養成という目的を帯びていたことに対して、民間の自由な精神に基づく教育・研究を目指すこと。第二に、資格試験の準備教育や狭い意味での法解釈学に止まらず、広く深い社会的視野と教養を重視した教育・研究であること。第三に、建学の精神にのっとり、社会への貢献、社会的弱者に目を向けさせる視点を重視した教育・研究であること。すなわち、民間における自由の精神、広く深い社会的視野と教養、社会貢献（奉仕）の精神という三つです。</p> <p>この理念に基づいて、法学政治学の研究を中心とした学問研究を行い、かつ本学部の理念に基づき教育された有為な人材を輩出し、それらを通じて、本学建学の精神にのっとり「マスターリー・フォー・サービス」を実践することが、法学部の目的です。</p> <p>(説明)</p> <p>2009年度に提示された昨年度までの目標と説明は実施目標の水準であったが、今回、従来も提示されていた学部としての理念・目的を示すことにした。また、従来もしめしたように、さらにその下位目標を下記のように定めているということを示したい。</p> <p>「この目的を実現するために、現今では、特に以下の5点を教育目標としています。</p> <p>1) 科学的な思考方法の修得 対象を直観的・主観的ではなく、客観的・多面的に観察し、論理的に分析を進めていく方法を身につけること。</p> <p>2) 広範な知識と社会的視野の獲得 法学・政治学の専門教育のみに止まらず、歴史学、哲学、心理学、社会学、経済学などの諸科学が明らかにしてきた広範な知識を身につけ、さらに広範な社会的現実の常目に向けられるようにすること。</p> <p>3) 正しい価値観と豊かな人間性の形成 よりよい社会と人間の幸福の実現に向けて奉仕する精神を育み、自由と正義の実現を目指した明確な価値観を形成すること。</p> <p>4) 人権感覚の陶冶 法と政治の基本的規範理念としての人権感覚を身につけること。</p> <p>5) 国際的地球的な視野の確保 本学の伝統を踏まえ、自由な精神に基づいて常に国際的・地球的な視野を身につけること。 これらの教育目標を、以下の実施目標として具体化しています。</p> <p>■学生の多様な進路希望の実現に資する、高い社会的評価が得られる能力の習得 (ア) ロースクール進学希望者に対する教育の充実 (イ) 企業法務を希望する者に対する教育の充実 (ウ) 国際感覚を生かせる職業分野への進出の支援 (エ) 市民的公共を踏まえた政策形成人材の養成</p> <p>■少人数教育による学生間・教員学生間での刺激に満ちた人格形成</p>
小項目0.0.2	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
	(周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 周知・公表している <input type="radio"/> 周知・公表していない
	<p>(説明)</p> <p>法学部の教育理念は、学部の履修心得や大学ホームページの法学部サイト等で明確に示して大学構成員に周知し、受験生用パンフレット（全学共通「空の翼」、法学部独自パンフレット）や大学ホームページの法学部サイト等で明確に示して、社会に公表している。</p>
小項目0.0.3	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
	(検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない
	<p>(説明)</p> <p>2010年度後半よりいわゆるディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーを提示するための検討を続けてきた。この間、学部の目的との関係でフィードバックを行ってきた。また、前年度に引き続き、これらの目標を実現するためのカリキュラム改革案の作成に向けて努力を続けている。</p>
その他	

《評価指標データ》

本学の育成した人材（卒業生）に対する社会（企業）の評価

卒業生がどの程度スクールモットー(マスターリー・フォア・サービス)をどの意識しているか【基本的な基礎データ】

卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率【基本的な基礎データ】

卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率

在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率

理念の周知について(1)－理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数

理念の周知について(2)－総合コース「『関学』学」の履修者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	上記現状説明のように、学部個性ある理念・目的が伝統に基づき明示されている。 なお、2009年度目標における「検討」は継続して実施され、2011年度にディプロマポリシーとカリキュラムポリシーの作成、さらに2012年度からのカリキュラム改革の大枠の決定が進み、着実な前進をみた。
★小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	
★小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	
★小項目0.0.2	在学生に対しては、ウェブでの広報や基本的な印刷媒体での広報、また具体的なカリキュラムや講義内容に表現される形での理念・目標の周知が最も重要であり、この点が行われているが、それとは別に、特に理念・教育目標の自覚化の取り組みとしては行われていないので、この点の改善が望ましい。
小項目0.0.3	
その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	
★小項目0.0.2	在学生に対する理念・目標の自覚化の試みを、広報委員会等を通じて検討を続け具体化する。特に、チャペルアワーでの、学部としての取り組みや法政学会講演会での取り組みなどの検討を行い可能なところから実施する。
小項目0.0.3	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	従来の理念・目的の記述が、実施目標水準の記述であったので、その点を学部としての理念・目標の水準に表記を改めた。ディプロマポリシー、及びカリキュラムポリシーの策定を次年度に行い、さらにアドミッションポリシーも提示し、総合的な体系を構築するとともに、12年度のカリキュラム改革の実現を図る。
----------------	---

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○学部の理念・目的が明確かつ具体的に設定されています。今後のカリキュラム改革を通じて学生の身につくことが期待されます。

【学内委員】

○2009年度立てた目標の達成度が「A」となったことについては高く評価できます。指標としている独自アンケート調査の結果について触れて、その具体化への新たな目標を設定することが望まれます。

○設定された目標に対し、順調に進展しています。

○理念・教育目標の自覚化に向けた方策について検討し具体化するとのことですが、可能なところから確実に実施することが求められます。

○理念・目的の記述を、実施目標水準から、学部としての理念・目標の水準に表記を改めたことは評価できます。

○理念・目的は明確であり、理念・目的→教育目標→実施目標の階層的な設定は大変優れています。

○周知、公表についても対応されています。自覚化の問題は、改善すべき事項に示されており、成果に期待します。

○小項目0.0.3における検証については、大学基準協会は達成度評価を「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」としています。定期的な検証に期待します。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目0.0.1

基盤評価：「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」「高等教育機関として大学が追求すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること」

達成度評価：「建学の精神、目指すべき方向性や達成すべき成果等を明らかにし、当該大学、学部・研究科の理念・目的として適切である」

○小項目0.0.2

基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること」

達成度評価：「理念・目的の周知・公表に関する各種方策（周知・公表の有効性や方法の適切性等の定期的な検証・改善など）をとり、当該大学に対する理解向上につながっている」

○小項目0.0.3

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 「理念・目的の適切性」の検証については、現在ディプロマポリシーを始めとする複数のポリシーを「理念」等と整合的に作成することが進行しているが、これらが整備された以後は、例えば3年や4年ごとに検証を行うことを、検証手続きや主体とともに、制度化することを検討したい。